

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	特定非営利活動法人劇場創造ネットワーク	
施 設 名	杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	23,374	(千円)
	公 演 事 業	18,402 (千円)
	人 材 養 成 事 業	1,563 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	3,409 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	世界をみよう!	令和4年7月16日~7月31日	『キュビックス』ル・テアトル・サン・トワ 『ウォ!』シアター・ブリック 『ななふし』カンパニー・リベルティヴォール 『ピン・ポン』演出:佐藤信、tupera tupera、竹屋啓子	目標値	1,419
		座・高円寺		実績値	1,406
2	劇場へいこう!	令和4年9月1日~10月17日	『小さな王子さま』 原作:サン・テグジュペリ 脚本・演出:テレーサ・ルドヴィコ 『フランドン農学校の豚~注文の多いオマケ付き~』 原作:宮沢賢治 上演台本:佃典彦 演出:西沢栄治	目標値	5,016
		座・高円寺、他		実績値	5,086

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	座・高円寺ダンスアワードⅡ	令和4年4月3日~5日	参加大学：天理大学、日本女子体育大学、国立台北芸術大学	目標値	190
		座・高円寺		実績値	96※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	遊ぼうよ!	令和4年4月～令和5年3月	〈みんなのリトル高円寺〉 舞台美術：大島広子、根来美咲 〈絵本の旅@カフェ〉 〈みんなの作業場〉 講師：ゼロコ、黒須育海、他	目標値	2180 *子どもを対象とした事業のため
		座・高円寺 他		実績値	3,611

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>杉並区立杉並芸術館「座・高円寺」（以下、座・高円寺という）は、「杉並区基本構想」で掲げるビジョンのうち、1）地域における多様なつながりの中で心豊かで自立心を持った「次代を担う人」を育むまちを築く 2）地域の特性を活かし、将来を見据えた産業の振興や経済活動の活性化 3）誰もが文化・芸術や生涯学習・スポーツに親しむことのできる環境の整備 4）文化芸術の振興を図るとともに、多様な文化が共存・発展する共生社会を築く の4点に基づき、人のにぎわいの絶えない「暮らしとともにある劇場」として、1）舞台芸術をつくる 2）観客とつながる 3）町とつながる 4）人とつながる の4つを施策とし、舞台芸術を中心に据えた事業を展開しています。</p> <p>本助成事業は、それぞれ上記の施策に基づき、適切に組み立てられており、特に、乳幼児から小中高生（「世界をみよう！」「劇場へいこう！」「遊ぼうよ！）・大学生（「座・高円寺ダンスアワードⅡ」）といった次代を担う世代の育成を主軸としています。</p> <p>すべての事業を実施することができましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた事業は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none">・「世界をみよう！」では、海外カンパニー1 団体の関係者が新型コロナウイルスに感染したため、公演を途中で中止しました。・「劇場へいこう！」では、感染症拡大の影響で観劇予定の学校1 校から前日にキャンセルの連絡があり、1 公演を中止しました。・「座・高円寺ダンスアワードⅡ」では、来日のかなわなかった国立台北芸術大学の学生の作品は映像で上映しましたが、日台双方に行き来ができず、予定していた直接の交流は叶いませんでした。
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>「世界をみよう！」では、未就学の子どもを持つ家庭が親子で一緒に舞台作品をみる機会の提供、「劇場へいこう！」では、子どもとおとなが一緒に楽しめる質の高い舞台作品の創造及び鑑賞の機会の提供、「座・高円寺ダンスアワードⅡ」では、舞踊家を目指す大学生の支援、「遊ぼうよ！」では、地域の子どもたちが年齢や学校を超えて交流し創造力をはぐくむ場の提供、を行い、劇場が年間を通して、学校と家庭と地域をつなぐ役割を果たしました。</p> <p>「劇場へいこう！」では、小学校の先生から「子どもたちは家庭により観劇する機会がある子もいればそうでない子もいます。そんな中、全員が生のお芝居をみられるという経験ができるとても良い事業だと感じています。またそのあとに実際に役者の方とワークショップができるなんて、夢のようなプログラムだと思います」との感想をいただくなど、事業の必要性を改めて実感しました。また、助成により参加費やチケット料金を安価（または無料）に抑えることで、特に子育て中の家庭や学生の経済的な負担を軽減することができました。以上のことにより、助成に値する文化的、社会的、経済的意義を継続して認められると考えます。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

「実績報告書」の「目標及び指標の達成状況」に記載してある目標について、定量と定性に分けて分析してみると、定量的目標として掲げた全8項目のうち、「達成した」1項目、「もう一息」5項目、「達成しなかった」2項目、定性的目標として掲げた全3項目のうち、「達成した」3項目という結果となりました。

○入場者数について

「世界をみよう!」「劇場へいこう!」「座・高円寺ダンスアワードⅡ」では、コロナ禍以前の令和元年度と同等の入場者数を目標に掲げていました。

- ・「世界をみよう!」「劇場へいこう!」では、前年度(令和3年度)の入場者数を上回り、着実に入場率の回復をみせていましたが、感染症流行前の入場率までは回復しませんでした。
- ・「座・高円寺ダンスアワードⅡ」では、台湾の学生による3作品が映像上演になり、生で見ることができる作品数が減ってしまったことが、入場者数が伸びなかった要因と考えられます。

○小学校の団体鑑賞について

コロナ禍以前(令和元年度)の全校(40校)参加を目標としていましたが、感染症拡大の影響で2校キャンセルがあり38校が参加、目標の全校参加には及びませんでした。しかし、緊急事態宣言下の令和2年の0校、令和3年度の14校と比較すると、元の状態に戻りつつあると考えられます。

○必要とされるプログラムの提供について

「世界をみよう!」「劇場へいこう!」は地域の子どもや親子にとって、「座・高円寺ダンスアワードⅡ」は学生にとって、それぞれ必要なプログラムとなっているか、アンケートを参考に分析しました。「世界をみよう!」では、「毎年「世界をみよう!」を楽しみにしています」「久しぶりにこういう舞台を見に行く機会を増やしたいなと思いました」、「座・高円寺ダンスアワードⅡ」では、「自分自身を成長させる場を与えてくださり本当に感謝しています」「それぞれのプロの方の言葉や技術、経験を肌身で感じるができることが、他のダンスキャンプや大会には全くないものだと感じました」などの意見が寄せられ、継続して行うに値するプログラムになっていると考えます。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

○事業期間について

令和2年度、令和3年度の経験を活かし、感染症対策の周知や実施方法などを工夫することで、おおむね当初の計画通りに進みましたが、感染症拡大の影響を受けた事業もありました。詳細は以下のとおりです。

- ・「世界をみよう！」： 海外カンパニー1 団体の関係者が新型コロナウイルスに感染したため、公演を途中で中止しました。それ以外の3 団体については、予定通り行いました。
- ・「劇場へいこう！」： 感染症拡大の影響で観劇予定の学校1 校から前日にキャンセルの連絡があり、1 公演を中止しましたが、全体の事業期間としては、計画通りに進みました。
- ・「座・高円寺ダンスアワードⅡ」： 来日のかなわなかった国立台北芸術大学の学生の作品は映像で上映しましたが、日台双方に行き来ができず、予定していた直接の交流は叶いませんでした。
- ・「遊ぼうよ！」： 計画通りの期間で開催しました。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業費は適切に積算され、おおむね当初の計画通りに進みましたが（決算時の要望時に対する比率102.68%）、感染症拡大の影響を受け、当初予算より減少した事業、また増加した事業もありました。詳細は以下のとおりです。

- ・「世界をみよう！」： 海外カンパニー1 団体の関係者が新型コロナウイルスに感染し、公演を途中で中止したため、協議の結果、中止分の公演料を支払わないことになったため、その分出演料が減少しました。
- ・「劇場へいこう！」： 感染症、ウクライナ情勢、円安の影響により、材料費や燃料費の高騰が影響し、舞台費と渡航費が増加しました。
- ・「座・高円寺ダンスアワードⅡ」： 国立台北芸術大学の学生と先生の来日がかかわなかったため、その分の日当、宿泊費、交通費の支出が減少しました。
- ・「遊ぼうよ！」： おおむね計画通り進みました。

適切な事業費の計上や収入を増やす努力が必要なのは言うまでもありませんが、未来を担う次世代の育成を目指す本助成事業では、いわゆる費用対効果の考え方による効率性だけではなく、事業の公共的な役割に対する理解や先行投資的な考え方と、長期的にみた社会的な効果の測定も重要だと考えています。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

○劇場・音楽堂等を象徴する人物の存在

芸術監督が質的責任、技術監督が技術的な責任、館長が経済的責任をとる体制のもと、制作・広報・技術の各分野の専門スタッフが緊密な連携を取りながら最大限の能力を発揮し、アーティストと来場者に対して誠実に事業を行うことで、事業を円滑に運営することができました。

大学生のためのダンスプログラム「座・高円寺ダンスアワードⅡ」では、大学生たちが座・高円寺の滞在中に振付・照明・音響のプロのスタッフのアドバイスを受けながら、自分たちの作品を再創造して最終日に上演しました。参加した学生からは「身近でこのような本物のスタッフの方々と交流できたことに喜びを感じます。たくさん学ばせていただきました」などの感想が寄せられ、劇場の持つソフトの力が次代を担う人材の育成に貢献していると考えます。

○提携・協力団体との連携

設置者である杉並区や杉並区教育委員会をはじめとし、杉並区とパートナーシップを結んでいる東京高円寺阿波おどり振興協会と日本劇作家協会、地域の団体（高円寺商店街連合会、NPO 法人ちいきちいき、他）、近隣の子ども関係の団体（目黒子ども劇場、せたがや子ども劇場、東村山子ども劇場、他）や、学校（保育園、幼稚園、子供園、小学校、中学校、高等学校、大学、専門学校）、地方の劇場（茅野市民館、茅ヶ崎市民文化会館、他）や、外国政府関係の団体（イタリア文化会館、アンスティチュ・フランセ、他）などさまざまな分野の団体から、事業の周知、経済的支援、間接的支援など多大な協力をいただき、多くの地域のみなさんに足を運んでもらうことができました。

○子どもたちにとっての地域の文化拠点

「遊ぼうよ！」では、小学生で「みんなの作業場」に参加していた子が、中学生になり参加者としてではなくスタッフのサポートとしてかかわったり、「みんなのリトル高円寺」の企画側のメンバーとした関わるなど、子どもたちの成長に合わせた参加の仕方を受け入れています。

また、「劇場へいこう！」では、生の舞台芸術を観ることの重要性が教育の現場でも徐々に認識され、子どもたちと一緒に観劇した先生からは、「アフタートークで、演劇が子どもたちにとってより身近なものになった気がします。役者さんの存在だけでなく、演劇を作り上げる多くの方々の存在を知ることができ、キャリア発達を刺激できたと思います」との意見が寄せられ、当館が地域の文化拠点としての役割を果たしていると考えます。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

○全世代が観られる重層的な作品づくり

「劇場へいこう！」では、子どもとおとなと一緒に楽しめる質の高い舞台作品2作品を創造し、鑑賞の機会を提供しました。

新作『小さな王子さま』では、子どもからは「わたしは「小さな王子さま」を見て、自分の住んでいるところをはなれて一人で冒険してみたいなあと思いました。この劇を見て、私は勇気が湧いてきました」「きつねといっしょに遊んで友達になり、最後に「忘れないでね」と言うのがとても感動しました」、大人からは「大人に向けた子どもからのメッセージ沢山！ すてきな表現！ 今を反映した舞台！ 心が躍り涙あふれた！」「理屈抜きに美しく！ 心が優しくなるお話でした、少しずつ相手を知って、友人をまた増やしましょう、幸せを選べる人になりたい」といった感想が寄せられました。子どももおとなも一緒に見て、単に楽しむだけでなく自分たちのおかれている環境や社会について、それぞれの視点で考える機会となるような重層的な作品を提供できていると考えます。

『フランドン農学校の豚～注文の多いオマケ付き』は、「東京だけでなく日本の食育学習として全国の子ども、大人に広げて頂きたい！ と思うくらいステキな劇でした」という感想も寄せられていましたが、農林水産省第7回食育活動表彰教育等関係者の部消費・安全局長賞を受賞しました。

地域の文化芸術の発展につながったかどうかは、本助成事業を行ったことによる目に見える変化がすぐに表れるわけではないので、自己評価をするのが難しいところですが、上記のことから、着実に地域文化芸術の発展につながっていていると感じています。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

NPO 法人劇場創造ネットワークは、公募型プロポーザル方式による審査を経て、令和3年4月1日から令和8年3月31日までの5年間に及ぶ座・高円寺の指定管理者に選定され、協定書に基づき管理運営を行っています。

PDCAの流れは、区に提出する当該年度の事業計画書を基本とし、外部委員で構成される懇談会による進捗状況の確認及び評価を経て翌年度への活動へとつなげています。また、現場レベルでは、観客や参加者によるアンケート、学校の先生によるアンケート、保護者へのヒアリング、担当スタッフによる事後評価、外部団体による調査など、さまざまなチェック機能を複合的に活用し、課題や改善点をスタッフ間で共有、事業の継続とさらなる展開へとつなげています。

人材育成の取り組みとしては、2年制の養成機関「劇場創造アカデミー」を設け、専門的知識を身につけるとともに、広く公共に向けて力を発揮できる人材の育成を行っています。本助成事業においても、「劇場創造アカデミー」の現役生や修了生がインターンやボランティアスタッフとして参加、また、修了生をスタッフや出演者として雇用するなど、彼らに経験の場を提供することで、組織の活動が継続するための基盤づくりを行っています。

経営戦略としては、事業内容の充実と安定的な運営のため、全体の約三分の一を占める指定管理料に加え、地方公演の実施、助成金、補助金、協賛金（公、民、団体、個人）の獲得に努めました。今後の劇場の活性化と地域コミュニティの継続的な発展は、ひいては全体の発展と活力へとつながるのであり、財源確保の自助努力に加え、国からの継続的な支援が必要だと考えます。

また、座・高円寺では、創造した作品を打ち上げ花火のように一回で終わらせるのではなく、劇場のレパートリーとして複数年上演を続けることで、作品の深さを増し、より多くの観客と出会うことを目指しています。また、そのことは作品づくりにかかわるコストの軽減にもつながります。